# 特集 40年前の夏に考えた、命と尊厳

施設長　城聞　卓夫

残暑の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本施設の運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。今回は、40年ほど前の私にとって忘れられない出来事についてお話しします。

## 若き日の渓流釣り

1985年8月10日から12日、夏休みを利用して高校時代の友人と群馬県北部の山中へ出かけました。キャンプをしながら、湖や渓流で釣りを楽しんだ若き日の夏です。

澄んだ流れの中を泳ぐイワナやヤマメは、川底の小石や深山の紅葉を映したように美しく、淡白で味わい深い魚でした。遠い昔から地球の寒暖に適応し、冷たい山の渓流で命をつないできた、たくましく魅力あふれる魚でもあります。

## 帰宅した夜

三日間の釣りを終え、夜中に帰宅すると、いつもなら暗いはずの家に明かりがついていました。母から「夕方、旅客機が長野県か群馬県の山中へ墜落したらしい」と聞き、私もテレビの前に座りました。

## 終わることのない臨時ニュース

その夜は、捜索活動の状況や、乗員乗客524名の名前が繰り返し伝えられました。私は疲れも忘れ、朝までニュースを見続けました。やがて墜落現場が、渓流釣りでも知られる群馬県上野村と分かり、奇跡的に4名が救出されたことも報じられました。

つい数時間前まで自分が過ごしていた群馬の山々。その静かな風景と、テレビから流れ続ける大きな出来事が、どうしても結びつきませんでした。

## 病院で目にした光景

祖母が入院していた藤岡市の病院へ見舞いに行った時、救出された親子が搬送されてくるという知らせが入りました。ほどなく、けたたましいサイレンとともに救急車が到着しました。

出入り口には多くの報道関係者が集まり、救急隊員は「一刻を争っています。道を空けてください」と繰り返していました。救命活動を妨げかねない混乱を前に、私も思わず声を上げていました。

祖母の病室の隣は集中治療室でした。廊下に漂う緊張感の中で、事故はニュースではなく、目の前にいる一人ひとりの命の問題なのだと強く感じました。

## 救命と身元確認を支えた人々

ご遺体は藤岡市内へ運ばれ、真夏の厳しい環境の中、医療関係者をはじめ多くの方々が対応にあたりました。数日後、藤岡市で歯科医をしていた私の従兄にも、歯科記録による身元確認への協力要請がありました。

その日の夕方、戻ってきた従兄は食事を口にすることができませんでした。その姿から、事故の大きさと、現場を支えた方々が背負ったものの重さを感じました。

## 毎年8月に思うこと

その後、この事故について多くの書籍や映像に触れました。中には噂や推測の域を出ないものもありましたが、多くの人の人生を一変させた大惨事だったことに変わりはありません。

8月が来るたび、連日伝えられたニュース、新聞の写真、ヘリコプターの音、夏の夕焼け、ひぐらしの鳴き声とともに、あの時のことを思い出します。

飛行機事故の恐ろしさと同時に、人の命や尊厳について、これほど深く考えさせられたことはありません。520名もの尊い命が奪われたことを忘れず、心よりご冥福をお祈りいたします。合掌。

※紙面に合わせ、原稿を一部要約・校正しています。

発行：社会福祉法人芳清会　理事長　岡田　留美　〒３５０-１１７２　埼玉県川越市大字増形１６４番地
TEL　049-247-7311（代表）　FAX　049-247-7312　https://www.houseiki-y.jp/　yasenosato@houseikai-y.jp

# 八瀬の里　彩りの日々

## その時に備える　― 消防訓練 ―

火災の発生を想定し、職員が通報・初期消火・避難誘導の流れを確認しました。ご利用者にも無理のない範囲でご参加いただき、落ち着いて避難することの大切さを一緒に学びました。訓練後は防災クイズやお話を交え、楽しみながら防災意識を高める時間となりました。今後も定期的に訓練を重ね、安全で安心できる施設づくりに努めてまいります。

## BCP感染症対策訓練を実施しました

感染症が発生してもサービスを継続できるよう、BCP（業務継続計画）に基づく訓練を実施。発熱者が出た際の初動対応、職員間の情報共有、区域分け、防護具の着脱を確認し、役割を再確認しました。

## 香りが誘う、熱々の一皿　― たこ焼きづくり ―

生地を流し入れる、具材をのせる、焼き上がったたこ焼きを返すなど、皆さまに役割を担っていただきました。香ばしいにおいが広がる中、できたてを味わい、笑顔があふれました。

## 歌えば心も若返る　― スナックぶこう ―

懐かしい雰囲気を楽しむカラオケレクリエーション。歌を口ずさんだり手拍子をしたりと会話が広がりました。発声や口腔機能の維持、脳の活性化にもつながる活動です。

## 一筆に、想いを込めて　― 書道教室 ―

筆を手に取り、一文字一文字を丁寧に書き上げました。真剣な表情で取り組まれる姿や、作品を見せ合いながら笑顔で会話される様子が見られ、和やかな時間となりました。

## 初夏の香りを摘む　― 梅狩り ―

青々と実った梅を見ながら会話を楽しまれ、季節を感じるひとときに。職員が付き添い、安全に配慮しながら一つひとつ丁寧に収穫しました。収穫した梅は今後の活動で活用します。

## 受け継がれる手しごと　― おいなりさん作り ―

油揚げを開く、酢飯を詰める、盛り付けるなど、手指の動きに合わせて作業を担当していただきました。「昔よく作ったよ」と懐かしい思い出話にも花が咲きました。

※紙面に合わせ、原稿を一部要約・校正しています。

発行：社会福祉法人芳清会　事長　岡田　留美　〒３５０-１１７２　埼玉県川越市大字増形１６４番地
TEL　049-247-7311（代表）　FAX　049-247-7312　https://www.houseiki-y.jp/　yasenosato@houseikai-y.jp

# 特集　ともに働く新星（ニュースター）誕生

## ― 特定技能実習生 1期生＆2期生のあゆみ ―

### 一枚に、これからが写る。――1期生・2期生、初の勢ぞろい

▲そろって記念撮影。1期生・2期生と職員のみなさん

特定技能実習生の1期生と2期生が、はじめて全員そろって顔を合わせ、職員とともに記念の一枚を撮影しました。

勤務するフロアや時間帯が違うため、全員が一度に集まる機会はこれまでありませんでした。この日は仕事を終えた後に集合し、先輩となった1期生が2期生に声をかけながら、和やかな雰囲気で並びました。

経験を重ねた1期生と、これから学ぶ2期生。世代の違う二つの期がそろったこの一枚は、八瀬の里のこれからを支える確かな一歩です。

▲修了証書を受け取る1期生

### 学びは、力になる。――1期生、実務者研修修了

当施設で働く特定技能実習生の1期生が、入職2年目を迎えた今年、介護の専門課程である「実務者研修」を修了しました。

日中は介護の現場に立ち、勤務の合間に知識と技術を学ぶ日々。仕事と学習の両立は決して簡単ではありませんが、仲間と励まし合い、職員の支えを受けながら、一歩ずつ努力を重ねてきました。

さらに今、年2回行われる日本語能力試験（JLPT）にも挑戦しています。最上級「N1」の合格を目標とする職員や、今より一つ上の級を目指す職員がそれぞれの目標に向かい、勤務を終えた後や休みの日に机に向かっています。

修了式ではこれまでの頑張りをたたえる言葉が贈られ、受け取る一人ひとりの表情には、介護職として歩んでいく決意と自信がにじんでいました。

### 日本の夏に、飛び込んだ。――2期生、七夕まつり初参加

2026年6月、特定技能実習生の2期生が新たに入職しました。慣れない土地での暮らしに戸惑いながらも、先輩となった1期生に支えられ、日々の介護の仕事を一つずつ覚えています。

そして8月1日・2日、狭山市入間川七夕まつりに初めて参加。色とりどりの大きな飾りや出店のにぎわいに驚きながら、笑顔で写真を撮り合う姿が印象的でした。

日本の伝統行事に触れたこの日は、2期生にとって忘れられない夏の思い出になりました。これからも地域の行事や交流を通じて、日本での暮らしと文化への理解を深めていきます。

▲七夕まつりの会場にて

※紙面に合わせ、原稿を一部要約・校正しています。

発行：社会福祉法人芳清会　理事長　岡田　留美　〒３５０-１１７２　埼玉県川越市大字増形１６４番地
TEL　049-247-7311（代表）　FAX　049-247-7312　https://www.houseiki-y.jp/　yasenosato@houseikai-y.jp

# アシスタント職の軌跡

― 支える手は、こうして育つ ―

当施設では、職員がより専門的なケアに集中できるよう「アシスタント職」を設けています。役割は「介護助手（パートナー）」と「環境整備」の二つです。

## 1．介護助手（パートナー）

ご利用者様が快適に過ごせるよう、介護職員を支えます。食事の配膳や片づけ、ベッドメイクと居室清掃、移動や外出時の軽い付き添い、行事の準備などが主な仕事です。

※原則として、身体介護は行いません。

## 2．環境整備

施設内を清潔で安全に保ちます。消耗品の補充や管理、清掃と設備の点検、感染症対策に基づく除菌や廃棄対応など、施設運営を支える業務を担います。

## 3．アシスタント職を設けた背景

少子高齢化や人手不足、物価高騰、制度改正など介護を取り巻く環境は大きく変化しています。高年齢の方、障がいのある方、育児・介護・治療と両立する方、外国人の方など、多様な人材が働ける環境づくりを進めています。

アシスタント職を通じて職員が生き活きと働き、ご利用者により良いサービスをお届けします。

# 持続可能な法人運営に向けた取り組み

― これからも安心の住まいを ―

**1．開業から20年、設備を計画的に整えます**
**2．ICT機器・ノーリフトケア機器を積極的に導入**
**3．地域に信頼される法人を目指して**
**　ボランティア・地域交流イベント**

**9月** 敬老の日のお祝い

**10月** 八瀬のお祭り

**11月** 大規模改修工事
非常用発電機設置



**12月** 近隣の小中学校との交流

## これからの歩み

**編集後記**　最後までお読みいただき、ありがとうございます。日々の何気ない場面にこそ、支え合う温かさが表れています。これからも施設の様子をお届けしてまいります。

※紙面に合わせ、原稿を一部要約・校正しています。

発行：社会福祉法人芳清会　理事長　岡田　留美　発行日：令和８年８月８日　〒３５０-１１７２　埼玉県川越市大字増形１６４番地
TEL　049-247-7311（代表）　FAX　049-247-7312　https://www.houseiki-y.jp/　yasenosato@houseikai-y.jp